●鈴鹿・神崎川谷尻谷からお金明神、銚子ヶ口へ

パーティー；gaoro 氏、macchan90

同行のガオロ氏共に、行き慣れてはいない鈴鹿山脈へ。

ガ氏から「お金明神」と呼ばれる岩塔を見に行きませんかとのお誘いだった。

当初はのんびりと一泊してその「お金明神」に詣って元来た沢を戻るという単なる周回計画だったものの目指す山頂もなく共に計画の「すわりの悪さ」を感じていたところ、山に向かう車中で呆気無く計画を改変、どうせゲートが閉じて同じく林道歩くなら銚子ヶ口登山口を起点に谷尻谷を遡行、お金明神に参って戻った後にはその谷尻谷北沢から銚子ヶ口に登頂し、登山道を降りればそこがゴールとなるすわりのよい計画とした。互いに同じことを考えていたところが心地良い。

「お金明神」、検索を掛けるとズラズラと獅子頭のような岩が紹介されている。本計画地の西方に位置する東近江市佐目に建つ若宮八幡宮は塔尾金明神の御神体である神聖な磐座がその「お金明神」だそうで、かつては佐目集落に暮らす人々の深い信仰を集めたそうだ。佐目子谷を登路とし(個人的には、かつて遭難寸前の道迷い記録を読んだ印象が未だ強い)、尾根や峠を越えてその登拝のため長く険しい道を辿ったものと想像する。その際に泊地とし禊をしたであろう谷尻谷上流に在る「垢離掻場(コリカキバ)」を起点とし、我々も登拝した。イワクラ好きにはどうにも外せまい。

九月の二日 6 時に近所にお住まいのガオ氏にお迎え頂き、堤防道路経由石榑峠越えで神崎橋まで 2 時間弱で着いた。当然ゲートはピシャリ閉じており、そのチョイ西の「銚子ヶ口登山口」に駐車して歩き出す。オロ氏とは痛風話で一くさり盛り上がり、3 年前に降り間違えた路を今度こそ正しく下って入渓地へ。水量の少ない白い神崎川本流を辿る。一箇所現れた廊下は今回も泳ぎを嫌って捲くも一度しくじったところが今年山に行けていない証拠だ。泳ぐ若しくはちゃんと右岸を捲きましょう。目的の谷尻谷に着いたと思うや上流からピシャリ同着で男女パーティーが現れた。彼らも谷尻谷を遡ると言う。出合のチョックストウン滝は、彼らは右から我らは左から越えた。ガロ氏がロープを出して下さったが、私には難しかった。何も下調べをしてこなかった私は、意外にも骨のあるこの谷に「板取川の川浦谷周辺の廊下みてぇだ」と感想を持っていたところ氏も同じことを仰った。廊下の果てる 5mCS 滝のクラック右岸を登るラインも、下調べ済みのがおろ氏はキッチリ持ち込んだカムをキメてスルリ登ってイッタ。谷は随分な土砂で埋まってしまったが、魚が走るのが見えた所でガオロ氏は竿を出し、後続の日帰り男女が追い抜いていった。面白形状の飛び出す滝をシャワーで登る様を撮影した。コリカキ場で憩う二人と会話して、彼らもお金明神へ向かうと知る。歴史滲みたこの場所を泊地とする我々は荷を置き、軽装で先んじてお金明神を目指す。看板や目印テープ多くあり、踏み跡も濃く迷うことはない。呆気無く到着し見上げたその磐座は「●っ●ぇ！」　現在地を見失って山を彷徨い、図らずも唐突に眼前に現れたと想像しても、そこに神意を感じることよりは「あれまぁ、面白え形の岩塔だなや」と思ってしまう私こそ神への敬意が足りていない証左なのかもしれない。ガオロ氏がアレヤコレヤの顔真似をして下さるのを写真に収めたが、何にせよ罰が当たりませんように。今後の人生の転換期になるかもしれない私は、お金ではなく将来に対してのお詣りをここでした。岩塔をグルリ一周して帰途についた。すれ違った件の男女ともこれでお別れだが、何にせよ前後するパーティーが在るというのがこれ程気持ちの落ち着かないものだとは知らなかった。

ガオロ氏が竿を出す間、釣りに興味ない私は周辺の倒木枯木を引っ掻き集めて火を熾して早々と飲みだした。鈴鹿では私の管轄の現場(美濃地方)ではついぞ見かけないアスナロ(明日檜、別名ヒバ)を多く見掛ける。穏やかな夜の樹間に月が冴える中、長々と二人酒を飲み続け、焚火の横でゴロ寝した。

明けて宿酔三日早朝、垢離掻いた？我々は北谷尻谷から穏やかな谷を詰めて銚子ヶ口の山頂を目指す。コリカキ場が架線集材の基地になっていたのと同様に、奥行ある北谷には炭焼窯跡や石組みが散見されて、鈴鹿という地が人寄せ付けぬ険しい奥山ではない、生活の糧を得る場としてちゃんと機能していた痕跡を見る。逆に言えば、鈴鹿の山に奥深さや奥行きを求めるべくもなく、山自体は小さいといえる。それ故に、山歩きの人達の痕跡が不必要なまでに残り過ぎており、自律的な登山を求める向きには些か物足りない山域である。とはいえ、登山道を離れた沢登りによって山頂に到達すれば、それはそれでまた貴い。藪漕ぎもなく、源頭部は岩盤主体の爽やかさで呆気無く導かれた。銚子ヶ口東峰は展望に優れた山頂で、主脈の西に位置していながら富士山が遠望できそうな地勢だ。光を映す伊勢湾や伊吹山、薄っすらと御嶽乗鞍が遠望された。源頭部の沢に沿った登山道で湧き水を汲み植林地をすり抜けて下山した。花はヤマジノホトトギスとトリカブトを見たのみ。なお登山道沿いの下部植林地に一本、素晴らしく金の取れそうな(伐って出して売ったら高そうな)九尺程の大杉あり。完満通直、無節、あれで色目や目締りが良かったらと思うと垂涎物だったけれど、山出しするのに苦労しそう。他の九〇年生はありそうな檜と共に、伐採師としては是非手に掛けてみたい杉木立だった。山の神に手を合わせてスタート地点の登山口へ到着したのが九時半、怪我もなく罰も当たらず下山できたことが嬉しい。

午後から娘の子守を頼まれていたために、おヒルも食べずにドライブして自宅まで送って頂けた。共に心地良い筋肉痛を残して。ガオロさんありがとう、またお願いします。ヒルに食われた手のひらが痒い。バチ当たり？　蜂じゃなくて蛭だわさ。

娘とヒル寝してから出掛けた夕刻のFC岐阜戦は、対する愛媛FCがヒルんでのことか岐阜の連勝で週末を美しく終えた。帰途見上げた空に月が美しかった。つまんで食べた唐揚げもまた美味かった。

【タイム】
9/2 銚子ヶ口登山口発(800)下降点(900)入渓地点(925-945)谷尻谷出合(1030)コリカキ場(1205-1220/1330)お金峠(1240/1315)お金明神ぐるり(1250-1305)
9/3 発(600)銚子ヶ口 1076.8m(735-50)登山口着(930)
【遡行図なし；追(ぼ)われて書き損ねた】